



## 第48回「おかねの作文」コンクール

### ちり 塵も積もれば

神奈川県・三浦市立初声中学校 1年 加藤 梨理

私の夢は、1円硬貨で1億円貯める事です。「気の長い話だな。」と父は言い、母は「硬貨を両替えるにも、手数料がかかるのよ。」と言って笑います。

でも、1万円札で貯めても、1円玉で貯めても、同じ1億円には変わりありません。

1円硬貨はアルミで、とても軽く、カバンの中を探せば、1個くらいころがってでてくるようなお金です。

でも私は、何故か大好きです。

小さな1円をしまう時、「これでまた1億円に近づいた。」とワクワクします。1円でこのワクワク感を得られるのですから、その価値は1円以上だと思います。

ただ、時々邪魔が入ります。母です。支払いなどで1円硬貨が必要になると、「ちょうだい。」と言って来る時があるからです。

そんな時は「ああ……。1億円が遠ざかる。」と、ちょっとショックです。

でも1円だと父も母もすぐくれるので、助かることもあります。

あくせく貯めるという感じではありませんし、半分ジョークのような気楽な貯金です。

1円硬貨ばかりなので、使ってしまうことなく、今のところ着実に1億円に近づいています。

1億円の使い道を考えるのも楽しみです。幸せなことに、今の私は恵まれています。衣食住の心配をすることもありませんし、塾や習い事、部活にと、忙しいけれど、楽しい毎日を過ごしています。

両親も、大学まで行きなさいと言ってってくれています。

今の私は両親に守られているだけの、ちっぽけな存在でしかありません。そんな私が、コツコツ貯めた1円硬貨を、誰かの役に立つ事に使えたら、と考え

ています。

何千円かの寄付で、貧しい国の子供達に、薬を届けられたり、学校で給食が食べられるようになるそうです。

また、盲導犬を育てている団体にも寄付したいです。視覚障害者の方達のために、もっともっと盲導犬の数が増えていってほしいと思うからです。

小さくて軽い1円硬貨の先にある夢は、どんどん大きく広がって行きそうです。

ちっぽけな一中学生である私と、1円硬貨はいい相棒なのかもしれません。

片や1億個集まれば、立派な1億円。

私だって、これからの努力次第で、何にだってなれる可能性があるのだ。

焦ることなんて無い。

コツコツと一つずつ、1枚ずつ貯めて行きたいと思う。

この貯金を楽しみながら、夢をふくらませながら。今日は1枚、明日は2枚。引き出しの奥をのぞいてみよう。

私と1円硬貨の付き合いは、これからもずっと続いて行きそうです。

私が社会人になって、お給料をもらうようになっても、通常の貯金とは別に、1円を貯めていると思います。

「1円を笑う者は1円に泣く」といいますが、私は1円と仲が良いので、泣く事は無いような気がしています。

いつか1円玉が助けてくれる時が来るかもしれません。

消費税が上がって、あっちへ行ったり、こっちへ行ったりと忙しい1円硬貨ですが、私の所ではゆっくりしてもらおうつもりです。

1円硬貨で1億円分の重さは、なんと100トンにもなるそうです。

まさに「塵も積もれば山となる」です。

私はどうでしょう。

山となれるでしょうか。

1円硬貨を手にとって眺めてみる。

「1億まで、頑張れよ！」

そう言ってくれているような気がした。